

welfare

[ウェルフェア]

2018年度社会福祉助成事業 助成先決定!

2018

63

CONTENTS

P2 社会福祉助成事業・アジア福祉助成事業
2018年度助成先一覧 ほか

くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

P4 「スクールソーシャルワーカーの
効果的な人材育成に向けた専門職団体の役割」
一般社団法人 静岡県社会福祉士会

P6 「健康長寿の科学的解明をテーマとする講演会」
特定非営利活動法人 元気・百歳

「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート

P8 SRILANKAに届け! 空飛ぶ車いす2017

P12 「車いす修理ボランティア活動」に新規挑戦した学校の取り組み

P13 「空飛ぶ車いす」年末のネパールツアー

P14 書き損じはがき収集ご協力をお願い

P15 福祉の共済コーナー

(社会福祉助成・アジア福祉助成)

| | 団体名 | 事業名 |
|----|-------------------------------|---|
| 静岡 | みしま難聴児を持つ親子の会 | 講演会「静岡県の難聴児への取り組みと課題について」 |
| 静岡 | HEALTHY FAMILY はままつ | 妊娠期から子ども虐待防止のための研修 |
| 静岡 | 子どもと保育の未来空間 | 子どもと保育の未来空間 |
| 愛知 | 特定非営利活動法人 愛実の会 | 当事者研究全国交流集会 名古屋大会 |
| 大阪 | 特定非営利活動法人 児童虐待防止協会 | 関係機関懇話会「子ども家庭総合支援拠点について考える～官民の連携を見据えて～」 |
| 大阪 | 特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪 | 身体拘束・虐待防止研修 |
| 兵庫 | 一般社団法人 高次脳機能障害者サポートネット | 高次脳機能障害啓発講演会 |
| 兵庫 | 特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー | 第3回西播磨認知症ケア実践研修 |
| 兵庫 | ビハーラケア研究会 | 平成30年度定例研究会 |
| 兵庫 | 神戸市立科学技術高校「空飛ぶ車いす研究会」 | 車いす修理講習会 |
| 島根 | えくぼ | えくぼニコニコ笑音楽会 |
| 広島 | KHJ広島「もみじの会」 | 2018年第13回KHJ全国大会in広島 |
| 香川 | 特定非営利活動法人 子育てネットひまわり | 社会課題の理解者を100人生み出す研修プログラム |
| 高知 | 特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知 青い空 | 第4回高次脳機能障害全国事業所職員ネットワーク研修会 |
| 福岡 | NPO法人 城南健康ふれあい倶楽部 | 認知症カフェ支援者育成研修と認知症介護者の集合研修 |
| 長崎 | 特定非営利活動法人 せかい卵 | 新上五島町で発達障害への理解を深める啓発 |

B. 研究事業 10団体 助成額:397万円

| | 団体名 | 事業名 |
|-----|-----------------------------------|---|
| 北海道 | 特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク | 長期在宅ひきこもり当事者支援向け家族アセスメントツール開発 |
| 群馬 | 群馬県相談支援専門員協会 | 群馬県内相談支援専門員実数把握及び業務状況調査 |
| 東京 | 公益財団法人 日本チャリティ協会 | パラアート（障害者アート）国際交流活動 |
| 東京 | 一般社団法人 日本車椅子シーティング協会 | タイの重度肢体不自由児向け座位保持キットの製品開発および実証試験 |
| 愛知 | 特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘 | 介護満足の本心を聞き取る手法に関する研究 |
| 愛知 | 特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち | 「社会的養護の小規模化における調査研究 一子どもの視点および職員の視点からの現状と課題の検討」 |
| 兵庫 | 一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ | 薬物依存症当事者の体験談を語ることによる再トラウマ化防止のガイドライン翻訳及び研究 |
| 兵庫 | 特定非営利活動法人 そらしど | 障がい児家族の子育て支援ニーズ調査 |
| 岡山 | 岡山ソーシャルワーカー協会 | ソーシャルワーカーの情報通信技術（ICT）活用力向上に向けた基礎的調査研究 |
| 長崎 | 特定非営利活動法人 アジア地域福祉と交流の会 | マレーシアにおける福祉の研究 |

2. アジア福祉助成事業

| 国 | 所属 | 事業名 |
|--------|--|------------------------------|
| タイ | Sharing-Love FamilyGroup | 在宅ヘルスケアの推進 |
| フィリピン | Center for Ignacian Formation and Community Ministries | 地域における研修・訓練プログラム等による地域開発 |
| インドネシア | Yayasan Usaha Mulia (Foundation for Noble Work) | 高齢者向け地域保健所（ヘルスポスト） |
| フィリピン | Kanlungan Sa Er-Ma Ministry Inc. | 路上生活青少年に対する教育プログラムならびに居場所の提供 |
| スリランカ | Srisugatha Community Development Foundation | 知的に障害のある子どもたちのデイケア・センター |

助成先の研修会・講習会の様子



2018年度 助成金交付団体決定

2018年度の助成金交付先は、研修事業と研究事業を対象として、53団体に1,838万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から沖縄まで33都道府県の社会福祉法人やNPO、その他任意団体等から合計100件の応募がありました。

また、アジア福祉助成については、5団体に150万円の助成を決定しました。
今年度は4か国から10件の応募がありました。

2018年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 43団体 助成額:1,441万円

| | 団体名 | 事業名 |
|-----|-------------------------------|---|
| 北海道 | 一般社団法人 ジャスミン権利擁護センター | 法人後見業務の現状と課題、それらに対する研修会 |
| 北海道 | 特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず | 第5回ソーシャルファームジャパンサミットin九州 |
| 北海道 | 特定非営利活動法人 ジャイフル | ペアレントトレーニング研修 |
| 岩手 | 特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館 | 就労定着推進における支援者研修会 ～オンライン研修 |
| 宮城 | 社会福祉法人 東北福祉会 | VR(バーチャル・リアリティ)認知症体験セミナー ～認知症を知り地域で支える～ |
| 宮城 | 一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会東北ブロック | 第13回ファミリーホーム全国研究大会in宮城・仙台 絆(きずな)～未来へつなぐ命～ |
| 宮城 | 特定非営利活動法人 あいの実 | 重症心身障がい児を支援するスタッフのスキルアップ研修会 |
| 茨城 | 特定非営利活動法人 茨城県精神障害地域ケア研究会 | 精神障害者対象のホームヘルプのこれからのあり方 |
| 茨城 | NPO法人 HI-MARC(ハイマーク) | 市民公開講座「むせないお口作り」～誤嚥性肺炎をしていますか～ |
| 茨城 | 茨城県自立援助ホーム協議会 | 講義と事例検討から学ぶ 生き辛さを抱えた若者たちへの専門的支援 |
| 埼玉 | 浦和ダウン症児を育てる親の会「コスモス」 | ダウン症全国巡回セミナーinさいたま |
| 千葉 | 一般社団法人 まつど地域共生プロジェクト | 地域共生社会の理解を深め、現場で実践する |
| 千葉 | NPO法人 スマイルクラブ | パラリンピックに向けた障がい者スポーツ指導者研修 |
| 東京 | 社会福祉法人 東京栄和会 | スキルアップ研修「パーソンセンタードケアを学ぶ」 |
| 東京 | 社会福祉法人 東京コロー | 「在宅就労セミナー2018」開催 ～「働き方改革」と障害のある人のテレワーク～ |
| 東京 | 公益社団法人 東京都介護福祉士会 | 新任介護福祉士研修 |
| 東京 | 一般社団法人 CIS | ダンスワークショップ～ココロとカラダが動きだす～ |
| 東京 | 学校法人 日本社会事業大学 | 介護職種の外国人技能実習制度に特化した生活指導員養成講習 |
| 神奈川 | 社会福祉法人 ばれっと | 障害福祉サービスに係る職員スキルアップ研修(TERAKOYAばれっとベーシック編) |
| 神奈川 | 一般社団法人 横浜市聴覚障害者協会 | 高齢聴覚障害者(ろう老人)に対する地域生活支援についての研修 |
| 神奈川 | 神奈川工科大学(KWR) | 車いす修理&メンテナンス技術講習会 |
| 新潟 | 新潟医療福祉大学(FWS) | 車いす修理とシーティング技術講習会 |
| 石川 | 社会福祉法人 愛里集福祉会 | 「共生ケア」の実践発表研修会～認知症高齢者と軽度の知的障がい者との共生～ |
| 山梨 | 社会福祉法人 あすなるの会 | 複数施設の技術と地域資源を活かした仕事の創出 |
| 山梨 | 特定非営利活動法人 フードバンク山梨 | 「学校をプラットフォームにしたフードバンクこども支援プロジェクトの推進」シンポジウムの開催 |
| 岐阜 | 社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会 | 地域づくりセミナー～地域まるごと共生社会～ |
| 静岡 | 社会福祉法人 明光会 | 障害者生活支援シンポジウム「障害者の生活と共生型サービス」 |

助成先の研修会・講習会の様子



● 助成事業成果報告

スクールソーシャルワーカーの 効果的な人材育成に向けた専門職団体の役割

一般社団法人 静岡県社会福祉士会

代表 山本 たつ子

一、はじめに

当法人は、社会福祉の援助を必要とする知識及び技術の県民への普及・啓発を行うとともに、社会福祉事業に携わる専門職員に対する技能の研鑽を行うことにより、地域福祉サービスの推進と発展を図り、もって静岡県民の社会福祉の向上に寄与することを目的とする。

二、助成事業概要

目的

今、日本で問われ、求められているスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）のあり方及び、そのなかでスクールソーシャルワーカー（以下、SSWr）に期待されている役割と課題について考え、SSWrのスキルアップを図る学びの機会を提供する。

日程・会場

①平成29年6月24日(土) 13時～16時30分

静岡駅前会議室B館 大会議室B301号
 ②平成29年10月28日(土) 12時30分～17時
 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 908会議室

内容

- ①スクールソーシャルワーカーの初任者を対象にした、講義・講演とグループディスカッション
- ②基調報告、パネルディスカッション（3名のSSWrによる実践報告、グループワーク（研修の振り返り～日頃の思いの分かち合い&ネットワーク作り～）

三、事業の成果

現在、静岡県下の各市町の教育委員会による「SSWr活用事業」については、それぞれの教育行政の独自性、教育委員会の考え方などによりさまざまな展開がされている。また、浜松市と静岡市を除く他の市町におけるSSW実践を取り巻く現状には、今後の方向性が不明確であるなど多くの課題が指摘

されている。

そのような状況において、今回のシンポジウムには、自らの実践の中身を検証し、今後のSSWのあり方について自主的に学ぼうとする方々が参加した。

基調報告においては、SSWの概念、機能、役割などに関する基本となり大切な内容についての講義を通して、受講者は自らの日々のSSW実践のあり方を論理的に再整理する機会となった。

パネルディスカッションにおいては、3名のSSWr（菊川市、富士市、浜松市）による実践報告の後、受講者も交えての意見交換の時間をもち、その議論を通して受講者はSSW実践がいかに多様な実践であるかについて触発され、さらにSSWrとして留意すべきスタンス（価値観など）について再認識する機会となった。

グループワークにおいては、さまざまな市町で仕事するSSWr同士が、自らの日々の仕事を通して語っている思い、疑問、不安、悩みなどについて語り合うことを通してシェアする時間となり、さらに自らのSSWrとしての仕事の意義を再考する機会

となった。

本シンポジウム全体を通して、受講者にとってエンパワーされる時間と新たなネットワーク作りをする機会を提供することができた。

四、成果の広報・公表

本シンポジウムにおける成果については、以下のような形での広報などを通して活用していく。

- ・静岡県下の各市町のSSW全員にフィードバックしていく。
- ・静岡県下の各市町の教育委員会の指導主事にフィードバックしていく。
- ・静岡県社会福祉士会の理事会、こども家庭福祉委員会にて報告する。
- ・こども家庭福祉、教育などをテーマにして開催されるさまざまな研修会などの場で、本シンポジウムの取り組みをはじめ、現在のSSWを取り巻く現状と課題について報告する。

五、今後の展開

近年、児童生徒を取り巻く学校、家庭、地域社会の状況は深刻さを増しているなか、文部科学省によりSSW拡充の動向が示され、SSWに対する期待が高まってきている。

2017年1月には報告書『児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～』が出され、今後のSSWのあり方に

ついて指針が出された。SSWが注視されてきているということは、一方でSSW個々の実践内容並びにSSW全体の「質の担保」が問われてきているということである。SSWを取り巻く状況は、チャンスと同時にピンチであるともいえよう。

このような動向を踏まえ、今後も静岡県下のSSWの「質の担保」を図り、その育成及びSSWの啓発（社会的意義を伝えるなど）のための研修会を継続開催していく必要があると考えている。



基調報告



グループワーク



パネルディスカッション

● 助成事業成果報告

健康長寿の科学的解明をテーマとする講演会

NPO法人 元気・百歳

理事長 高嶋 貞夫

一、はじめに

「本法人は奈良市西部地域の高齢者住民を対象に、健康寿命延伸と健康づくりを目指し昨年4月に発足したNPOで、文化講演会や健康長寿文化祭の開催、機関誌「奈良健康倶楽部」の発行、健康増進セミナーの開催を主な事業としており、正会員数は現在200名です。昨年6月、学園前ホールで実施した評論家・樋口恵子女史の「人生百年時代への船出」講演会に続き、今回は貴会の御助成を得て、健康長寿の科学的な解明をテーマに「アンチエイジング」講演会を開催したところです。

二、助成事業概要

実施目的

男女の平均寿命が83・7歳となつてわが国が世界一の長寿大国となる中、高齢者の多くが健康長寿を願ひ、「健康で元気に長生きする方法」に強い関心を寄せています。そのため、健康長寿の科学的な解明が高齢者福祉にとって喫緊の課題であり、奈良市北側に隣接する同志社大学アンチエイジング・リサーチセンターより講師をお招きしてアンチエイジング

講演会を開催することになりました。

実施時期

平成29年5月30日 13時30分～15時45分

会場 奈良市西部会館3F学園前ホール

参加者 333名

実施内容

(挨拶) 司会・高原市社協事務局長 主催者・高嶋 NPO理事長 来賓・福井市社協会長

(音楽会) 松本真理子・マリンバ演奏会(元奈良県教育委員長のトークショー)

出演・松本真理子ほか6名 演奏「聖者の行進」、
「剣の舞」など13曲

(講演会) アンチエイジング講演会

講師・同志社大学生命医科学部 米井 嘉一教授

三、事業の成果

1 マリンバ演奏会

マリンバ演奏家・松本真理子女史率いるアンサンブル「アトラ」の演奏会は、ピアノとトランペットを含む6名の団員による若さ溢れる演奏と、奈良県教育委員長も勤めたことのある真理子女史の巧みなトークで会場を盛り上げ、ほとんど高齢者

ばかりの観客席も手拍子で応えるなど熱気あふれる音楽会となりました。(注)マリンバ・共鳴用の金属管が付いた打楽器で大型の木琴

2 アンチエイジング講演会

司会者による講師紹介のあと、講師の米井嘉一教授が登壇され、パワーポイントによる70画面の紹介を基にアンチエイジング・ライフの理論と実践について講演が行われました。

補助席を含めて330名の参加者は、「老後の暮らしを元気に長生きする秘訣は何か」一言も聴き漏らすまいと熱心に聞き入り、講演の最後には盛大な拍手で感謝の意を表し、「いい講演会でしたね」と笑顔で会場を後にされました。講演の要旨は下記の通りです。

(1) 老化と抗加齢医学

アンチエイジング・抗加齢医学とは健康長寿・健康増進を目標に老化のメカニズムを研究する学問で食事療法、運動療法、精神療法からなる。

老化とは、①さびる ②活性酸素などによる細胞の酸化作用 ③しばむ ④内分泌変化によるホルモン減少と老化の加速 ⑤風化する ⑥生き甲斐を失って後ろ向き志向になる精神的弱体化

(2) 抗加齢(アンチエイジング) 指導の目的(健康長寿の秘訣)

① 動脈硬化を防ぐ ② 寝たきりを防ぐ ③ 痴呆を防ぐ ④ 癌を防ぐ ⑤ 酸化を防ぐ

(3) アンチエイジング・ライフの5原則

① 運動しましょう (柔軟体操・有酸素運動・筋力トレ) ② 良い食習慣を身に付けよう ③ タバコは絶対に吸わない ④ プラス志向で行きましょう ⑤ 恋をしまっよう (Happy people live longer)

四、成果の広報・公表

(1) 奈良新聞の報道

講演会の翌日、5月31日の奈良新聞に当行事の記事が掲載され、「いつまでも若く」奈良で健康長寿文化祭」という見出しで紹介され、講演会については以下のような記事になっています。「第2部の講演会では、同志社大学生命医学部の米井嘉一教授が、『アンチエイジングー美しさ、若さを保つ』で講演。『アンチエイジングは機能年齢の若返りと老化予防』と指摘し、運動や食習慣、プラス志向など、アンチエイジングのポイントを解説した。」

(2) 奈良日日新聞の報道

講演会の3日後、6月2日の奈良日日新聞に当行事のことが掲載されました。「音楽を通じて若返り」アンチエイジング文化講演会」という見出しで紹介され、「講演ではマリimba奏者の松本真理子さんによる演奏会が行なわれ、約340人の来場者が若さの秘訣を知ろうと熱心に耳を傾けていた」などという記事になっています。

(3) 機関誌「奈良健康倶楽部」第4号(9月発行)に講演要旨を掲載する予定

五、今後の展開

(1) 機関誌にアンチエイジング理論紹介欄を設置
 本法人の機関誌「奈良健康倶楽部」(500部発行)にアンチエイジングの理論と実践に関するコーナーを設け、経常的に会員へ知識と情報を提供し、健康長寿の啓発に努めます。

(2) アンチエイジング講演会の継続

アンチエイジング講演会を今後も継続して開催し、健康長寿問題の科学的解明についての高齢者住民の要望に応じていきます。そのため、同志社大学のほか、大阪大学人間科学部や京都府立医大より専門の講師をお招きする準備を進めていきます。

(3) アンチエイジングドックの開催を検討

会員を対象にした定期的なアンチエイジングドックの開催を検討します。保健福祉部など行政の協力を得て、専門家による老化防止と健康長寿のための健康相談会の開催を計画します。



マリimba演奏会



アンチエイジング講演会(米井教授)



マリimba演奏会(松本真理子女史)

SRI LANKAに届け!

「空飛ぶ車いす」2017

2004年12月26日に発生したスマトラ沖巨大地震で、スリランカ南部沿岸は甚大な津波被害を受けました。現地コーディネーターも津波で一人息子(当時7歳)が犠牲になる出来事もあり、被災3か月後に日本の工業高校生たちが修理した約150台の緊急車いす支援を行いました。

しかし、翌年5月に現地入りした高校生らが目のあたりにしたのは、津波被害だけではなく、送った車いすの空気漏れ、パンク、ブレーキなどの不具合が5割超という悲惨な状況でした。車いすが無いスリランカでは貴重なものであり、緊急整備を行って手渡し大変喜ばれました。

高校生たちは帰国後支援継続とタイヤ対策を訴え、

これを機に日社済はタイヤを全てノーパンクタイヤに切り替えることにしました。以来スリランカに送った車いすは1650台を超えています。ただ、タイヤ問題はクリアしましたが整備不良はまだあり、現地メンテナンスが必要で

今回の訪問は7月にコンテナ輸送した125台を現地ボランティアと一緒に点検、整備を行い、修理技術を伝えることが目的でした。また、家庭訪問では環境調査と利用者本人、家族に使用方法などを伝え、安全な利用を促しました。

最後に今回の活動状況報告について、初めて海外活動を行った2名の大学生のレポートをお届けいたします。



スリランカの学生と共同で整備した車いすの最終点検



養護施設の子もたちも興味深そうに手伝ってくれた



スリランカの子も学生も手際よく修理してくれた



修理完了の記念撮影



スリランカの学生の手伝いで整備完了した車いす



孫を抱っこして喜ぶ一家



歩けない一人暮らしのおばあさんは隣のお世話で暮らしている



車いすで段差をクリアする方法を実演



田舎道を歩いて家庭訪問へ

「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート

- 期日** 2017年8月31日(木)～9月4日(月)
主催 神奈川工科大学KWR、新潟医療福祉大学FWS
助成 公益財団法人日本社会福祉弘済会
協力 サハナサラナ財団(代表アーリヤダーサ氏)
 カルタラ市ライオンズクラブ
内容 ①車いすコンテナ輸送(125台)
 ②点検・整備+修理講習(車輪、ブレーキ、フットレスト調整など)
 ③家庭訪問

活動日程

◆8月31日(木)

- 9:00 成田空港第2ターミナル集合
 FWS 前日23:00夜行バスで新潟出発 KWR 6:00電車で厚木出発
 11:20 (日本時間)成田発UL461
 17:10 (現地時間)コロンボ着 ※時差3時間30分

◆9月1日(金)

- 7:00 朝食+ミーティング
 8:00 ホテル出発(作業着)
 8:30 修理会場:ピクシュビベカラマヤ寺
 準備:修理会場設営(車いす、工具置き場など)
 9:30 挨拶、日程説明 スリランカの学生10人、現地ボランティア10人参加
 修理作業手順説明<通訳と事前打ち合わせ>
 100台の点検開始(点検カードの確認)25台は既に寄贈済
 カードの区分け(赤、青、緑、黄色)一作業効率アップの為
 グループ分け(リーダー1、サブ+スリランカボランティア)
 15:00 カルタラ市内の2軒家庭訪問
 16:00 反省会

◆9月2日(土)

- 8:00 朝食+ミーティング
 8:30 ホテル出発 5軒家庭訪問(カルタラ県内)地元ライオンズクラブ協力
 一車いす10台持参 サイズ違い予備を含む一

◆9月3日(日)

- 7:30 朝食+ミーティング
 8:30 ホテル出発 贈呈式準備:ピクシュビベカラマヤ寺
 9:30 車いす選定、贈呈式(障害者10人+家族)
 13:00 ホテルチェックアウト コロンボへ
 17:00 コロンボ空港着
 19:15 コロンボ発UL460(機中泊)

◆9月4日(月)

- 7:35 成田着 解散

参加者

| | | | | |
|------------------------------|-------|--------|-------|--------|
| 神奈川工科大学 車いす修理屋(KWR) | 林 美希 | 善山 友香 | 山口 榛奈 | 武藤 英里 |
| | 羽賀 大樹 | 長谷川 瑞記 | 梅原 直人 | |
| 新潟医療福祉大学 義肢装 具自立支援学科(FWS) | 中澤ほのか | 石川 翼 | 茂田井 優 | 竹田 翔平 |
| ボランティア | 新田 実 | 後藤 佳宏 | 池田 拓海 | 佐々木 俊一 |

(敬称略・順不同)



家庭訪問はお坊さんが案内してくれた



手製のいざり車で暮らしていたが、奥さんも車いすは大助かりと喜んでくれた



5年前、秋田からもらった車いすは、タイヤは摩耗しブレーキも壊れた。1人暮らしに2台目は必需品だった



贈呈式に参加してくれた11人には日本のお菓子もお渡しした



今回も活動を支えてくれたサハナサラナ財団のボランティアと記念撮影

初めての海外

神奈川工科大学創造工学部1年
林美希

1 参加の動機

私が見つ、KWRというボランティアサークルに入ろうと思ったきっかけは海外活動に魅力を感じたからです。先輩方が活動の度に更新しているSNSを通して、活動内容や活動風景を見て、自分もこの活動をしてみたいなどと思いました。

私の姉には障害があつて車いすです生活しているというのもあり、車いすには親近感がありました。私にとつても生活の一部である、そんな車いすを修理し、海外の必要とされている方に渡すという活動に衝撃を受けました。また、私は今まで一度も海外に行つたことがなく、海外に行くことに抵抗を感じていたので、この機会に自分の考えや感覚を変えるためにも絶対に行こうと思いました。

2 スリランカの方々の印象

スリランカの方は日本語を喋ることができないと先入観を持っていました。しかし、最初の自己紹介の時に日

本語で自己紹介をして下さった方がほとんどで、しっかりと歩み寄つて下さつて、すごくいい人ばかりだなと感じました。また、通訳の方は私と個人的にもお話をしてくださり、スリランカについてたくさんを知ることができました。本当に親切な方ばかりです。

3 活動時のスリランカの学生の印象・エピソード

新潟の大学との顔合わせのとき、あまり話すことができず、KWRの先輩方にスリランカでは自分から話しかけられないといけないと言われていました。そのこともあり、とても意気込んで活動を開始しました。

しかし、私は男の学生さんと2人で作業したのですが、その方はとてもフレンドリーで、言葉が話せなくてジェスチャーで伝えるしかなくても、すぐ理解して丁寧に作業して下さり、逆にこちら側が助かるほど積極的な方でした。

4 家庭訪問で印象に残ったこと

糖尿病で足を切断して車いすを必要としている方が多いと感じました。私の知る限り、日本で車いすを使用している方は、知的障害があり体が思うよ

うに動かせない人の方が足を切断してしまっている人よりも多いと思います。それは日本の義足技術が発展しているからなのでしょうが、国が違うと使用する人も、また使用する人の障害の状態も違ってくるということに衝撃を受けた家庭訪問でした。



スリランカの学生たちと一緒に梱包を解く

5 空飛ぶ車いすの意義

実際に利用者、家族に車いすを渡してみても「空飛ぶ車いすの意義」をすごく感じました。家庭訪問や最終日に、利用者とその家族と触れ合いながらシーティングし、車いすを渡して、とても喜んでくれている姿を見て、心からやってくれたなと思えました。だからこそ、日本では不要となった車いすでも海外には必要としている人がたくさんいるということを多くの日本の

高校生に知ってもらいたいです。今回、スリランカの人にとつてプラスだけでなく、私自身も成長させられる部分が多々ありました。お互いにとってプラスである、これこそが「空飛ぶ車いすの意義」だと思います。

6 今後へのアドバイス・工夫すべきところ

突然の休憩や、家庭訪問での滞在時間の延長など予期せぬ事態に対応しきれなかったりと時間配分ができず、先輩方やOBの方に頼ることが多かったです。そこは、毎晩全員でミーティングをし、次の日の予定をしっかりと確認するべきだと思います。また、先輩方に質問することが多く、自分の修理技術もまだまだだと思ひ知らされませんでした。先輩方やOBの方に頼らないためにも、1人で出来るくらいに修理技術を身につけて海外に行くべきでした。

7 自分の変化

以前は消極的でしたが、自分から積極的に話しかけに行くことが出来るようになりました。また外国人と活動をしてみて、もっと英語を勉強したい、話したいと思うようになりました。本当に活動に参加してよかったです。

海外でのボランティア

新潟医療福祉大学2年

中澤ほのか

1 参加の動機

学生のうちに一度でいいから海外に行って、その土地の様子を自分の目で見たいと思っていました。私が通う学校では2年の夏休み明けから学校生活が忙しくなると聞いていたため、今しかないと考え、思い切って参加しました。また、自分が修理に関わった車いすのその後や、使う人のことを実際に見て知りたいという気持ちもありました。

2 スリランカの方々の印象

日本とは違う未知の国で上手くやっていけるのかと、到着するまでとても不安でしたが、通訳のアーリヤダーサさんをはじめ、現地の方々は皆親切な良い人たちで、緊張が少しほぐれました。ホテルやバスのスタッフさん、ボランティアの学生さん、お寺の僧侶の皆さん、車いす利用者さんとそのご家族、そういった人々のおかげで良い3日間になったと思います。

3 活動時のスリランカの学生の印象・エピソード

学生さんたちは挨拶もちゃんと返してくれて、積極的に意欲的な人ばかりでした。日本語も上手に使って自己紹介しており、こちらも外国語の勉強などで見習わねばと思われました。

一緒に修理をしたのは小学生くらいの少年でしたが、ジェスチャーなどで示せば、車いすを抑えてくれたり、自分から進んで車いすを運んでくれたりして、とても助かりました。上手く会話ができて、彼に感謝の気持ちが伝わったのか、少し疑問です。



修理中の私と少年

4 家庭訪問で印象に残ったこと

スリランカは道路が舗装されておらず、足場が悪かったり、森の中のような場所に民家があったりと、環境が整っていない様子が多くみられました。

た。また、そんな場所にも障害者が住んでいることが驚きで、日本では考えられないと思いました。なかには一人暮らしの高齢者もいましたが、ここでは近所での付き合い・助け合いがあって生活できていて、スリランカならではの良いところなのかもしれないと感じました。

5 空飛ぶ車いすの意義

途上国の障害者や高齢者を手助けするには、モノを与えるだけでなく、環境整備の面も考えなければということを感じました。この活動ではそこまですべき問題までは解決できないけれど、自分に合った車いすをもらった利用者たちは、喜んでいました。彼らの悩みや苦痛をすべて取り除けるわけではないけれど、やりがいのある活動だと感じました。

この活動を知っている人が一人でも増えてほしいです。そしてこの活動に関わっている日本の学生たちは、是非とも現地での修理のその先を、自分の目で見て触れてほしいです。

6 今後へのアドバイス・工夫すべきところ

今回FWSは人数が少なかつたといえ、KWRに頼りっぱなしだったように感じました。修理は日本での日頃

の作業で力を身につけておかねばならないし、自分のやることに自信と責任をもてるようにしないといけない。海外へはそう簡単に何度も行けない。道具も環境も揃った日本で準備できることは、余裕を持ってわかるだけすべてやっておくべきです。

また、今回FWSは引き継ぎがほとんどされていませんでした。現地と同じ失敗をしないように、記憶が新しいうちに振り返りを行い、引継ぎ用の資料などをまとめるべきだと思います。

7 自分の変化

日本以外の国の障害者や高齢者に会って、人助けの根本的な難しさや、日本の豊かき、海外の不便さを知ることができたのが、一番大きな変化だと思います。現代では実際に行かなくてもその国を見たり知ったりできますが、それだけではただの井戸の中の蛙なのです。

ただし、シーティングはほとんど見ているだけでした。他の人が何とかしてくれるという甘さと、自分には上手くできないという自信のなさがあったのだろうと、振り返ってみて思います。相手に上手に説明できるくらい修理やシーティングの勉強をしなければならぬと反省しました。

また機会があれば、こういった海外での活動に参加したいと思います。

「車いす修理ボランティア活動」に新規挑戦した学校の取り組み

2018年3月末現在、全国の工業高校生による「空飛ぶ車いす」ボランティア修理活動は、約60校で実施されています。今回は、2017年度から6名の生徒が一つのチームとなって、授業の一環である課題研究として新規に取り組みを始めた土浦工業高校のメンバーの活動を紹介します。

茨城県立土浦工業高等学校

活動の主旨・目的

新たな課題研究を探していた時に、自分達と同じ工業高校生が日本で使われなくなった車いすを世界の子供たちや高齢者にプレゼントし感謝されていることを知りました。また、茨城県ではその活動に未だどの高校も参加していないことを知り、自分たちが機械科で学んだ知識や技術で、壊れた車いすを綺麗に修理し社会貢献したいと想い挑戦することになりました。

な問題にぶち当たりましたが、再度作業手順等を確認し、最終的にはスムーズに解決することができました。作業する中でベアリングの役割、仕組みを改めて知ることができたのは大きな収穫でした。計画通りに3台完成させ発送することができ、その車いすが海外（アジア諸国）で活用されると思うと、課題研究の成果として世界貢献できたことにチーム一同大変な喜びを感じています。来年度以降も是非機械科の後輩たちに引き継いでもらいたいと考えています。

活動の流れ

- 4月 年間計画作成
- 5月 車いす探し 保護者・老人ホームからの寄贈等
- 6月 修理工具準備
- 7～11月 修理（車いすの分解、洗浄、錆落とし、タイヤ交換等）
- 12月 梱包・発送

活動の結果

最初は力任せに作業していたため、途中、様々



車いすの梱包作業



ノーパンクタイヤへの交換完了



共同作業の一コマ



スリランカに届いた車いす

年末のネパールツアー

野木秀子・小嶋美代子

暮れも押し迫った2017年12月26日、香港経由カトマンズで国内線に乗り換えの長旅でしたが、気候に恵まれ、晴天のヒマラヤ山脈を拝むことができました。日本より厳しい寒さを予想していましたが、朝晩は冷え込むものの、日中は過ごしやすい助かりました。現地の方々の暖かさに触れたのも理由のひとつかもしれません。今回私たちは「障害を乗り越え、クラウドファンディングでバリアフリーのゲストハウスを達成した女性を訪問」というタイトルのツアーにて、ネパールポカラを訪問。ここには、「空飛ぶ車いす」2台も入っており、熊本地震の際に余剰となったランドセル50台などと共に届けることになりました。「空飛ぶ車いす」は、私(野木)が客員教授としてお世話になっている神奈川工科大学でも、修理、運搬に協力させていただいておりますがその運搬に協力でき嬉しい限りです。ポカラの空港で、障害者のお二人に無事お渡しすることができました。ネパールは初めてでしたが、ヒマラヤの美しさに感激!! 皆さんの笑顔が一番でした。

事故で足を切断したラマヌ・タパマルさんとバラツ・バニヤさんのお二人は早速車いすを使って、お祭りでお店を出したそうです。



カトマンズで荷物を降ろしたところ



バラツさんにプレゼント



ラマヌさん



バラツさん

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から
届けられた「書き損じはがき」を切手
に交換し、さらに企業等の協力により
切手を現金化して“パンクしないタイ
ヤの購入費用”や“工業高校から
国際空港までの車いす輸送費用”に
充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、
生徒会などで車いすの
修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などで
アジア各国を訪問する際に、
搭乗機手荷物として
運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(平成29年1月～12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

阿見町社会福祉協議会
石井 瑞江
市川市社会福祉協議会 ボランティアセンター
市村 キヨ
糸魚川市社会福祉協議会
岩井 江翠
岩手県社会福祉協議会
大池 勝巳
神栖市社会福祉協議会
小林 優夢
紫雲会 千葉南病院
ジブラルタ生命保険株式会社
鈴木 真由美

大屋社
竹谷 尚人
土屋 渉
渡久地 志織
鳥取市ボランティア・市民活動センター
豊明市社会福祉協議会 ボランティアセンター
兵庫県立相生産業高等学校
兵庫県立東播工業高等学校
平井 スミ子
米寿会
三菱総研DCS株式会社
宗像 加代
ワーカーズ・コレクティブ たすけあい せや

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
URL ▶ <http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html>
TEL.03-3846-2172 FAX.03-3846-2185

拡がる・引き継がれる 「空飛ぶ車いす」ボランティア活動

福祉の共済を推進しているジブラルタ生命は、地域に根差した企業であり続けるために、全国各地で社員による福祉施設でのボランティア活動や、地域でボランティア活動に励む青少年を応援する PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワードを初めとしたさまざまなプログラムを実施し、福祉や教育分野での社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

今回は、日社済の支援事業である「空飛ぶ車いす」の活動を通して、2017年度の第21回ボランティア・スピリット・アワードでみごとコミュニティ賞を受賞した高校をご紹介します。

兵庫県立東播工業高等学校 空飛ぶ車いすサークル（兵庫県）



福祉施設や市役所などから使用不能な車いすを提供してもらい、部品交換などの修理後、国内外に寄贈しています。タイに25台、スリランカに16台を贈り、近隣の方への出前修理も3台行いました。海外での使用に耐えられるよう、学校独自の車検基準で入念にチェックし、これまで13ヶ国に計462台を寄贈しました。新たに「書き損じはがき」を収集することで車いすを贈る活動も始めました。

神戸市立科学技術高等学校 空飛ぶ車いす研究会（兵庫県）

施設や個人から不要になった車いすを提供してもらい、東南アジア諸国などの必要としている人たちに寄贈する活動をしています。先輩から引き継いだ整備技術で、6年連続年間寄贈台数200台以上を達成し、2017年6月には海外への寄贈台数が2,000台を突破、車いす提供の問い合わせも増えてきています。毎年夏休みには、近隣の施設で車いすの出張点検整備も実施しています。



福岡県立浮羽工業高等学校 自動車研究部（福岡県）



学校で学んでいる知識と技術を生かして、日本で使わなくなった車いすを集めて整備・修理し、アジアの被災地域や車いすが必要な場所へ送る活動に取り組んでいます。また夏休みには、6回目の台湾での海外ボランティアとして、台北の障がい者施設などで活動したほか、地域の子どもたちを学校に招き、合同で車いすの整備をするという試みも実施しました。

ボランティア・スピリット・アワードとは

「ボランティア・スピリット・アワード」とは、ボランティア活動に取り組む中学生・高校生を支援するプログラムです。このプログラムは、活動に優劣をつけるものではなく、賞を通して

ボランティア活動について情報交換できる場を提供し、誰もが気軽に、そして自然にボランティア活動に取り組める社会環境を創ることを目指しています。

2018年度 第22回の応募要領は、5月頃に告知されます。

SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワードの詳細は、ホームページをご覧ください。

www.vspirit.jp



ジブラルタ生命は、プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です。

■ お問い合わせ先：ボランティア・スピリット・アワード事務局
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー
電話 03-5501-5364





くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

